

## 結果 1 1カ月の在宅介護の高齢者のための費用

要介護高齢者のために1カ月に使ったお金は、平均で6万9千円(中央値では4万4千円)でした。そのうち、介護保険の居宅介護サービスの利用料(介護保険1割自己負担分+全額自己負担分)には平均3万7千円(中央値は1万1千円)、介護サービスの利用以外にかかった費用(おむつなどの購入や医療費など)は、平均3万2千円(中央値は1万5千円)でした。要介護度が上がるにつれて、介護サービスの利用料が増え、合計額も高くなっています。

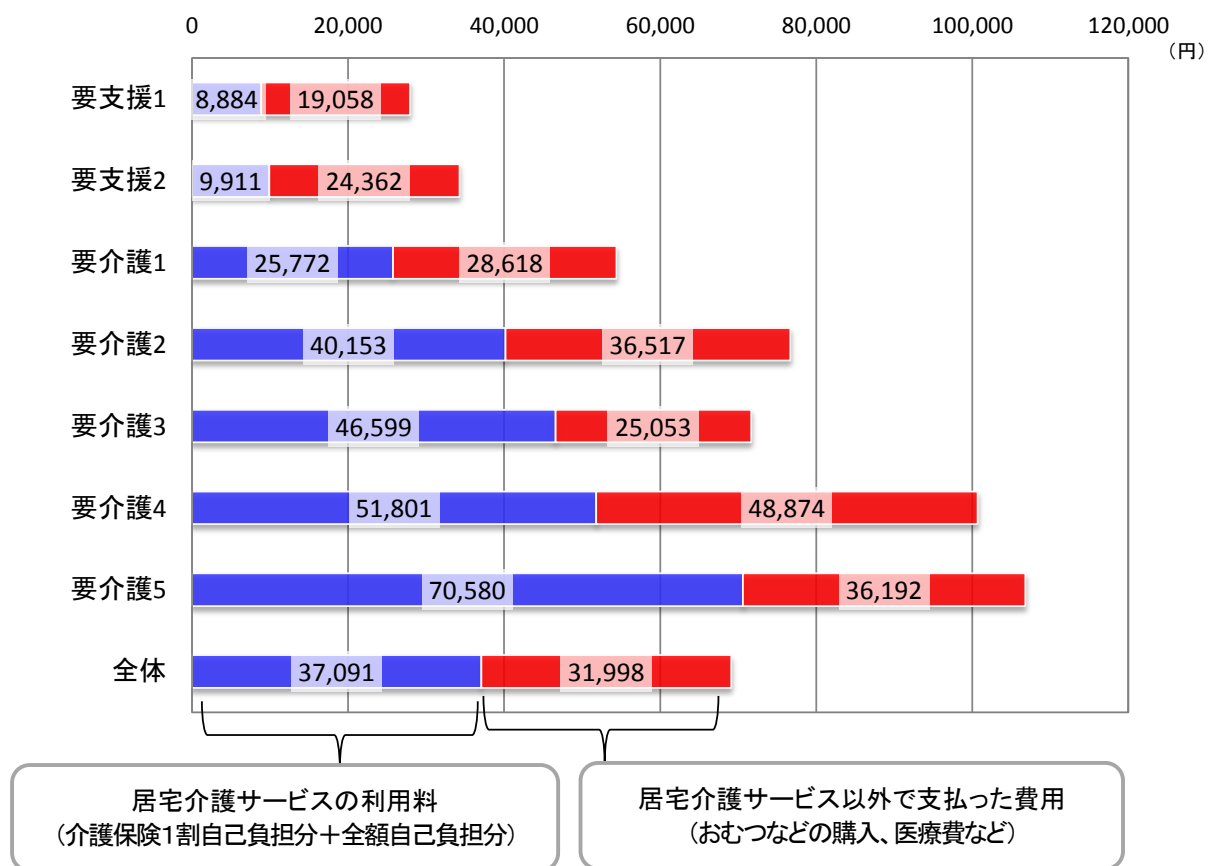


図-1 要介護度別 在宅介護の高齢者のための支出合計額(平均値・2011年10月)

注) 講演会で報告した平均値とは異なる。最終報告では、主に外れ値の処理の手続きが異なるため、介護保険の区分支給限度額以上の費用分を、全額自己負担部分の方に再分類しているため、全体的に高額になっている。

## 結果2 介護サービスの利用料

介護保険の居宅介護サービスの利用料(2011年9月利用分)の合計は全体で平均3万7千円(中央値は1万1千円)でした。【図-1の青の部分】

その内訳をみると、介護保険給付対象での1割自己負担分の平均は1万3千円(中央値は1万円)、全額自己負担分の平均は約2万4千円(中央値は500円)でした。多くの世帯が、介護保険の給付額の範囲内でサービスを利用していますが、範囲以上の介護サービスを利用している世帯では大きな負担になっています。

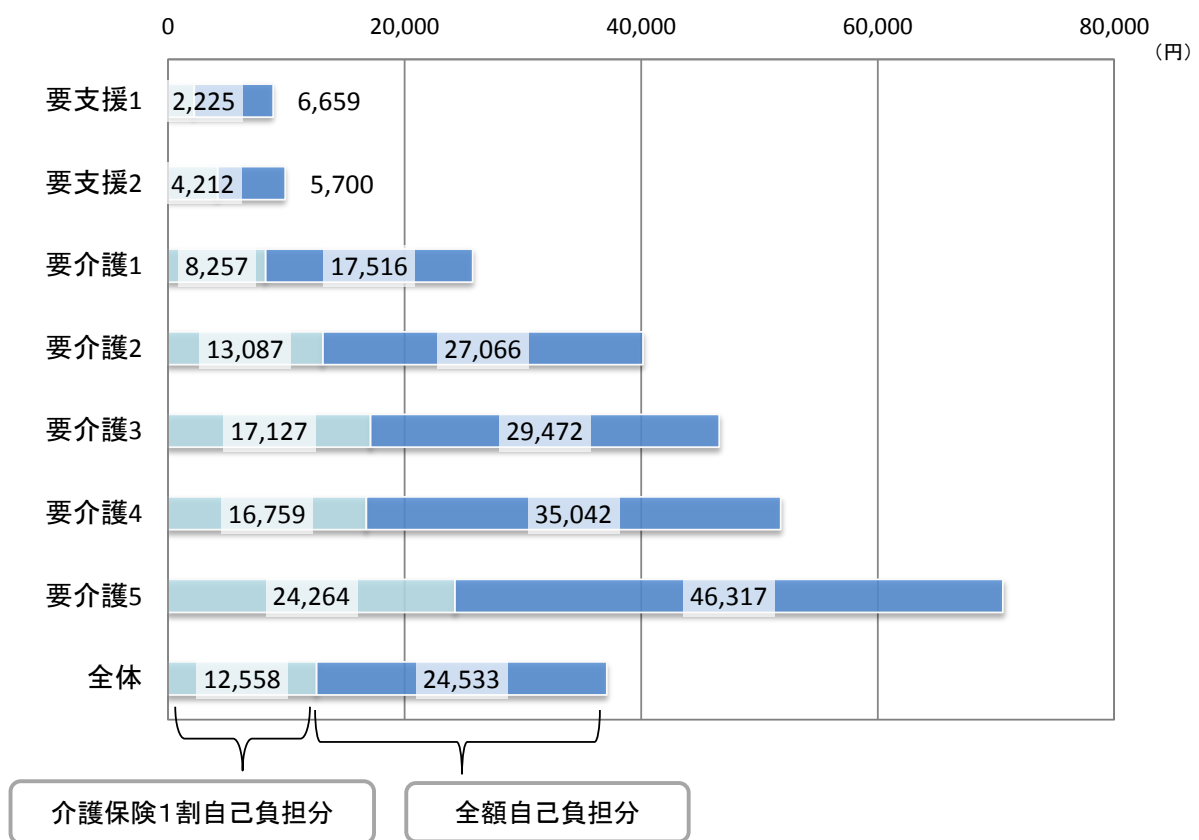


図-2 要介護度別 介護サービスの利用料の平均 (2011年9月利用分)

### 結果3 介護サービス以外に必要なものの支出額

介護サービス以外に、要介護高齢者のためにかかった1ヵ月あたりの費用の平均は全体で約3万2千円(中央値では1万5千円)でした。【図-1の赤い部分】。

そのうち、介護食や排泄介助用品などの直接介護にかかわる費用の平均は1万2千円でした。介護関連以外にも医療費や税・社会保険料などが大きな割合をしめています。

ただし3割の世帯では高額医療・高額介護合算療養費制度を利用して、実際の負担は軽くなっています。たとえば一般的な所得水準の場合、医療・介護保険の自己負担合計額が年間60～70万円を超えた部分は後で戻ってきます。

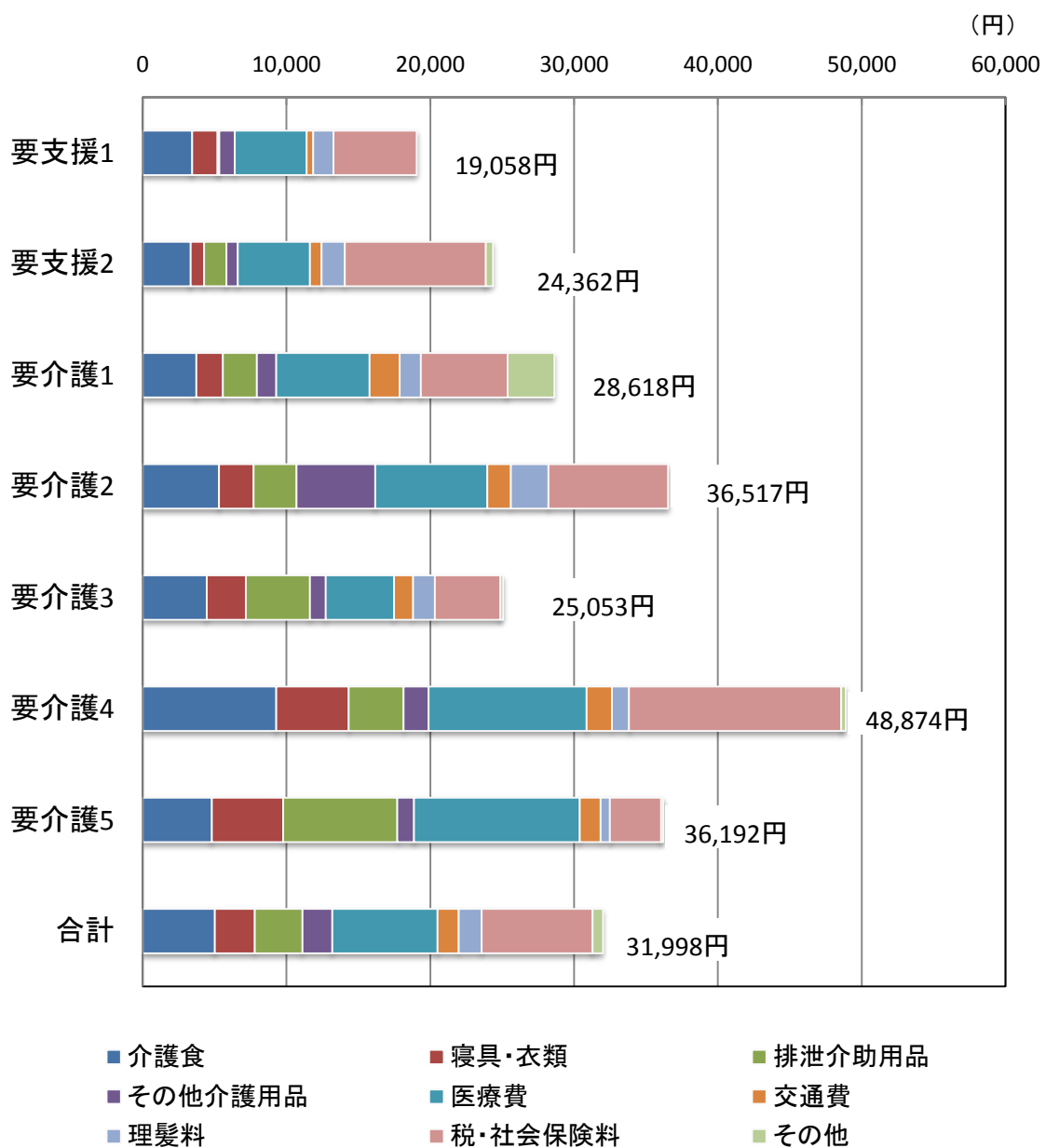


図-3 要介護度別 介護サービス以外にかかった費用の平均 (2011年10月)

#### 結果4 認知症の有無別 1ヵ月の在宅介護にかかる費用

要介護度と要介護高齢者の認知症の状態別に、在宅介護にかかる費用をみると、一番重い「要介護4か5で、認知症も重度」という世帯では、1ヵ月あたりの平均で13万円かかっています。また、要介護度が低くても、認知症が重度の場合は、支出額が大幅に増えています。

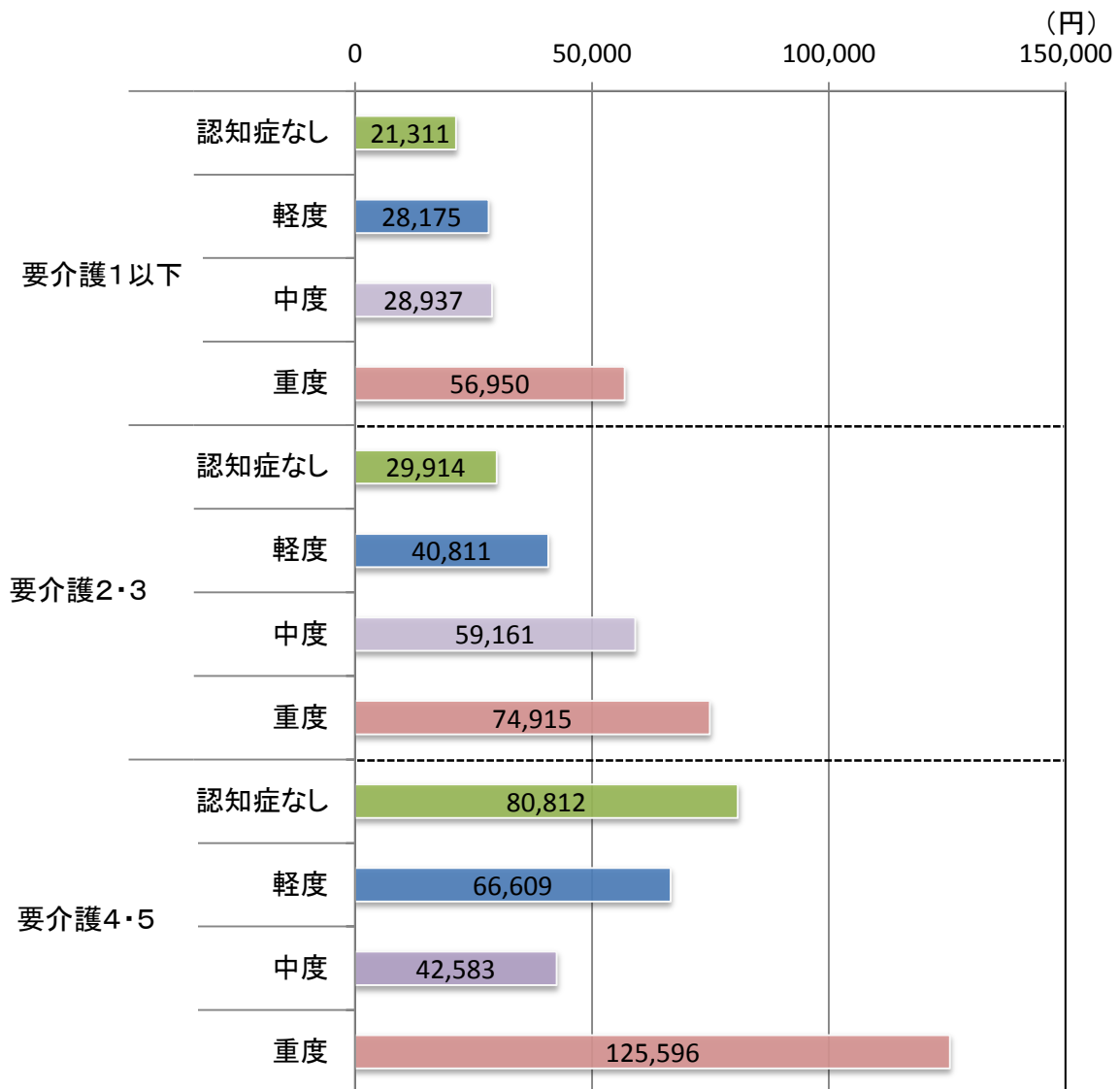


図-4 要介護度・認知症の状態別 在宅介護の高齢者のための支出合計額

(平均値・2011年10月)

## 結果5 介護による生活への影響

主に介護をしている方を対象に、介護によって家計や家族関係、(就業中の方は)お仕事に、どのような影響があるかを尋ねました。介護開始前に比べて、世帯の総収入が減ったという世帯が約半数で、総支出が増えた世帯も男性5割、女性6割と、介護によって家計面にも影響が及んでいることがわかります。また、介護によって、女性は他の家族との関係に対して、男性では仕事に対してストレスを感じています。

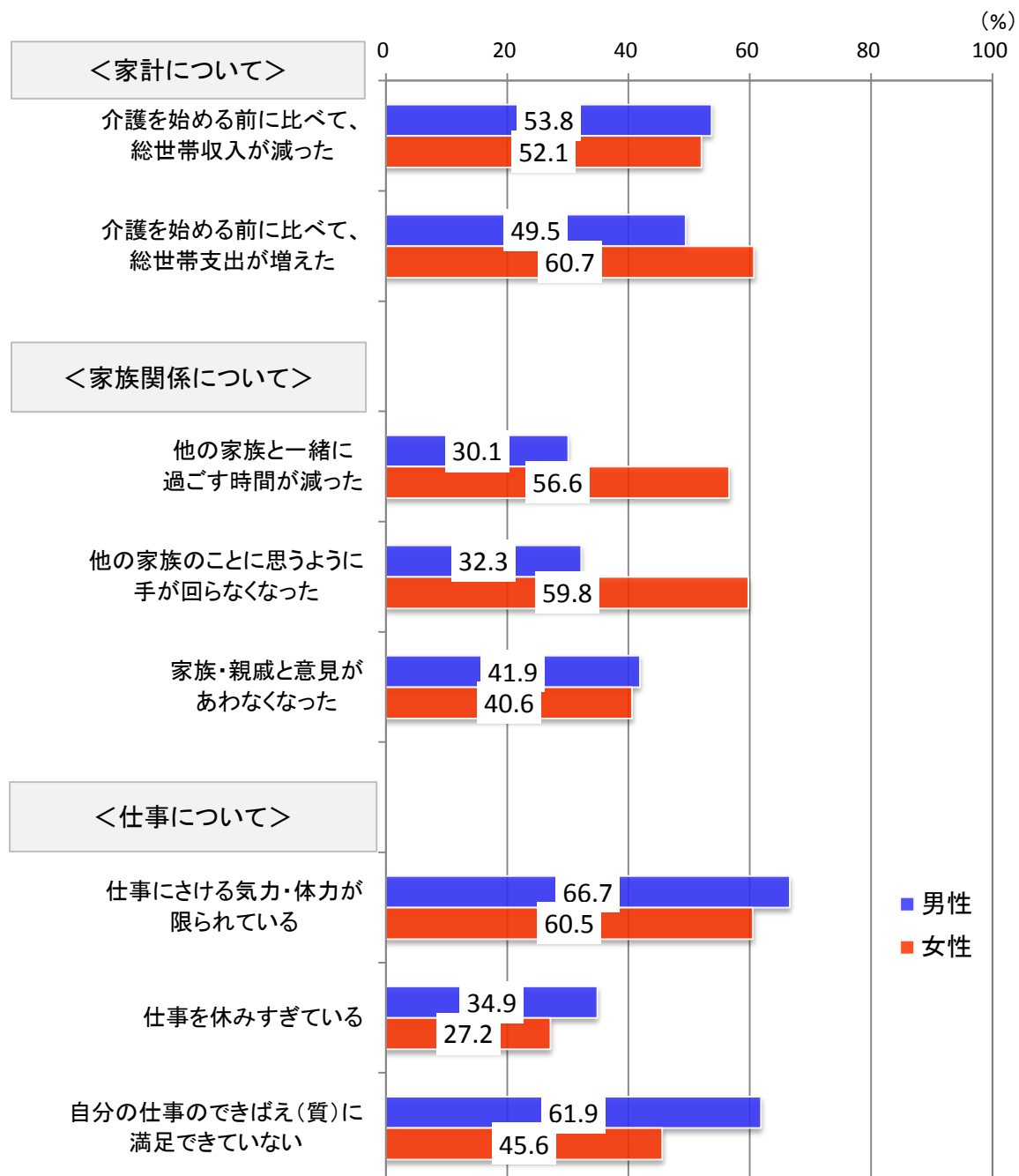


図-5 男女別 介護による生活の変化

注) 分析対象を主たる介護者に絞る等の処理を行っており、講演会で報告した数値とは異なる。